

## 第103回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：令和5年2月28日（火） 15：00－17：00
2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室
3. 出席者
  - (1) 委員  
後藤委員長、常田委員長代理、遠藤委員、片岡委員、櫻井委員、篠原委員、白坂委員、鈴木委員、松尾委員
  - (2) オブザーバー  
森昌文内閣総理大臣補佐官、山川 JAXA 理事長
  - (3) 事務局  
内閣府宇宙開発戦略推進事務局：河西局長、坂口審議官、滝澤参事官、渡邊参事官、齊藤参事官
  - (4) 関係省庁  
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課：上田課長、池田宇宙利用推進室長
4. 議事要旨
  - (1) 次期宇宙基本計画の策定に向けた主な論点について  
事務局から資料1及び資料2に基づき、次期宇宙基本計画の策定に向けた主な論点に関する説明を行った。委員からは以下のような意見があった。
    - 宇宙科学や輸送のいずれにおいても、産学官での連携が必要である。
    - 有人宇宙活動について、コストダウンやスピードアップのために、可能な限り民間企業の力を利用していく方針が大切である。
    - 科学探査について、技術だけではなく、ミッションの内容も重要である。また、ミッションの利用者側のユニークな発想が大切である。
    - MMX は我が国の優位性が高い取組みであるので、着実に進める必要がある。
    - 宇宙科学・探査はミッションの大型化が進んでいるが、我が国がどの流れにどこまでついていくのか、ニッチを目指すのか選択が必要になる。他方で日本が積極的に入っていき成果を出すことも必要であり、引き続き、議論が必要である。
    - 国際協力にあたり、日本が優位に立てる技術が無いと、費用負担に見合った成果を得られないことになる。
    - 輸送系について宇宙先進国として世界でのプレゼンスを示すために、我が国が自立して技術を有することは重要である。また、技術面だけではなく、制度環境の整備なども含めて議論を行うことが必要である。
    - 打上げの頻度と即応性の観点は重要。制度や環境整備も含めて総合的な取り組みが必要である。
    - 自立性を確保するためには、国産化も必要であるが、その際には価格面に留意するとともに、サプライチェーンにおける弱みを認識して、引き続き、議論を行うべき。

以上